

1-9

演題	褥瘡の予防や改善に効果のある取組み
副題	

法人名	社会福祉法人 セイワ
施設名	介護老人福祉施設 鷲ヶ峯

発表者名 (職種)	水口 ゆうじ 介護職員
共同発表者	上原 亜由美
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	川崎市宮前区菅生ヶ丘 13 番 1 号
TEL	044-978-2721
FAX	044-976-6470
メールアドレス	s-washigamine@soleil.ocn.ne.jp
URL	http://www.seiwa-washigamine.jp

今回の発表施設 またはサービスの 概要	当施設は川崎市宮前区に位置し、開設 23 年目、特養：72 床、平均介護度 4.3。短期 18 床、通所 30 名、地位包括支援、居宅介護を運営しています。2F・3F が入所施設、介護職員もフロア制で生活の支援をしています。
---------------------------	--

研究の目的、PR ポイント

ここ数年、施設として利用者の褥瘡ゼロを目標として掲げ取り組んできていたが、褥瘡の再発や新たな水泡形成、発赤の発生する利用者がおり褥瘡ゼロに至らず一進一退の状況が続いている。

3F フロアで再発する利用者が多く見られたため、褥瘡の改善及び予防について職員の褥瘡に対する意識の再確認を行い、その結果による具体的な改善や予防方法を構築、実践することにより褥瘡ゼロを目指す。

取り組んだ課題

現在 3F フロア本入所 38 人に対し、寝返りが出来ず褥瘡発生の高リスクの利用者が 23 名おり、褥瘡の発生人数も増えてきている。

介護職員が褥瘡の発生や予防と改善について意識し、フロア職員全体をチームとして情報共有し共同で褥瘡の改善と予防に取り組む。

介護職員が褥瘡形成者、高リスク者を把握し統一したケアを行う為に、分かりやすく手間のかからない周知方法を模索し情報共有を図った。

具体的な取り組み

利用者の褥瘡ケアに関するアンケートを 3F フロア職員に実施し、褥瘡形成者、高リスク者の把握状況、褥瘡ケアについての各個人の考え等を収集した。

アンケートにより、褥瘡形成者、高リスク者に対する除圧やケアの方法について統一がされていないことが分かり、ケアの内容と周知方法について方策を検討した。

1. 体位交換表を作ってこまめな体位交換を行い実績がわかるようにした。
2. 利用者の居室の壁に注意点や除圧の仕方等について貼り紙をし実行した。
3. 看護職員を中心とした褥瘡ケア委員会(看護職員・介護職員・管理栄養士・相談員・ケアマネ・事業長もメンバー)を定期開催し、ケアの実施状況と褥瘡の状態の把握・管理を行う。
4. 臀部の褥瘡の改善が悪く車椅子を使用している利用者については離床時間が長くなり過ぎないように、臀部への負担を軽減する。

5. ポジショニングの再確認として、外部講師を招き研修を行う。
6. 褥瘡(発赤や水泡含む)発生後の経過観察を行う。

活動の成果と評価

1. 体位交換表を使用することで褥瘡ケアに対する職員の意識が改めて高まった。
2. ベッドサイドの壁に体位交換時の除圧方法や注意点を掲示したことにより、やり方を覚える手間が省けケアの統一に繋がった。
3. 栄養状態が改善したことで褥瘡の治癒が早まった。
4. 発赤や水泡、皮剥けといった褥瘡が再発してしまう利用者もあったが、適正な除圧やポジショニングにより、褥瘡のさらなる悪化を防ぐことが出来ている。
5. 職員も褥瘡が改善していく状態が目で見えて分かり実感することで取り組む意欲が高まった。

利用者の褥瘡の改善や再発予防に一定の効果が得られていることで、フロア職員の褥瘡に対する意識が高まり、褥瘡の情報共有や改善、ケアの方法に関することなど積極的に意見交換をするようになっていく。

今後の課題

未だ褥瘡ゼロの目標に向かっていく過程であり、さらなる対策の検討と実践が必要である。情報のいち早い共有と対策の立案・実行が褥瘡の悪化を含めた予防対策の第一段階と考える。今回行った取組みや研修をブラッシュアップし褥瘡ゼロを目指していきたい。

また、今回は施設の 3F フロアにおいて研究を行ったが、2F フロアにおいても導入を検討し、施設全体で褥瘡ゼロを目指していく。